

日経平均が過去最大の下げと上げ！金融経済教育、行動コーチング等アドバイスが求められる時

～ハイテク(半導体)株やインド株を含む多様な資産・投資期間・終了時期で積立投資の有効性を検証～

三菱UFJアセットマネジメント株式会社 商品マーケティング企画部 松尾 健治 (kenji-matsuo@am.mufg.jp) 窪田 真美 (mamii-kubota@am.mufg.jp)

※三菱UFJアセットマネジメントがお届けする、NISAなど内外の資産運用に関連する情報を発信するコラムです。

●日経平均が過去最大の下げと上げ！

2024年8月5日(月)に日経平均が前営業日比-4,451.28円/-12.40%(31,458.42円)と過去最大の下げ幅を記録し、(米国ブラックマンデー/Black Monday/暗黒の月曜日後に付けた)1987年10月20日の下げ幅-3,836.48円/-14.90%を超えた。31,458.42円という水準は2023年10月31日以来安値、2024年7月11日に付けた過去最高値42,224.02円から-10,765.60円/-25.50%下。翌2024年8月6日(火)に日経平均は+3,217.04円/+10.23%(34,675.46円)と過去最大の上げ幅を記録、2024年8月7日(水)の日経平均は+414.16円/+1.19%(35,089.62円)と2日連続上昇している(2024年8月8日は-258.47/-0.74%の34,831.15)。

日経平均の変動率の「幅」・「率」ランキング(1～10位)～上段は「上昇幅・率」、下段は「下落幅・率」～

● …2024年8月
2024年8月7日現在

日経平均の上昇幅ランキング

順位	日付	曜日	引け値	上昇幅
1	2024年8月6日	火	34,675.46	+3,217.04
2	1990年10月2日	火	22,898.41	+2,676.55
3	1987年10月21日	水	23,947.40	+2,037.32
4	1994年1月31日	月	20,229.12	+1,471.24
5	1990年3月26日	月	31,840.49	+1,468.33
6	2020年3月25日	水	19,546.63	+1,454.28
7	1990年8月15日	水	28,112.12	+1,439.59
8	2015年9月9日	水	18,770.51	+1,343.43
9	1992年4月10日	金	17,850.66	+1,252.51
10	1988年1月6日	水	22,790.50	+1,215.22

● …2024年8月
2024年8月7日現在

日経平均の上昇率ランキング

順位	日付	曜日	引け値	上昇率(%)
1	2008年10月14日	火	9,447.57	+14.15
2	1990年10月2日	火	22,898.41	+13.24
3	1949年12月15日	木	109.62	+11.29
4	2024年8月6日	火	34,675.46	+10.23
5	2008年10月30日	木	9,029.76	+9.96
6	1987年10月21日	水	23,947.40	+9.30
7	2020年3月25日	水	19,546.63	+8.04
8	1997年11月17日	月	16,283.32	+7.96
9	1994年1月31日	月	20,229.12	+7.84
10	2008年10月29日	水	8,211.90	+7.74

● …2024年8月
2024年8月7日現在

日経平均の下落幅ランキング

順位	日付	曜日	引け値	下落幅
1	2024年8月5日	月	31,458.42	-4,451.28
2	1987年10月20日	火	21,910.08	-3,836.48
3	2024年8月2日	金	35,909.70	-2,216.63
4	1990年4月2日	月	28,002.07	-1,978.38
5	1990年2月26日	月	33,321.87	-1,569.10
6	1990年8月23日	木	23,737.63	-1,473.28
7	2000年4月17日	月	19,008.64	-1,426.04
8	1991年8月19日	月	21,456.76	-1,357.61
9	1990年3月19日	月	31,263.24	-1,353.20
10	2016年6月24日	金	14,952.02	-1,286.33

● …2024年8月
2024年8月7日現在

日経平均の下落率ランキング

順位	日付	曜日	引け値	下落率(%)
1	1987年10月20日	火	21,910.08	-14.90
2	2024年8月5日	月	31,458.42	-12.40
3	2008年10月16日	木	8,458.45	-11.41
4	2011年3月15日	火	8,605.15	-10.55
5	1953年3月5日	木	340.41	-10.00
6	2008年10月10日	金	8,276.43	-9.62
7	2008年10月24日	金	7,649.08	-9.60
8	2008年10月8日	水	9,203.32	-9.38
9	1970年4月30日	木	2,114.32	-8.69
10	2016年6月24日	金	14,952.02	-7.92

(出所: 日本経済新聞社より三菱UFJアセットマネジメント商品マーケティング企画部が作成)

日経平均の記録的下げを直近から遡ると、2024年8月2日の-2,216.63円/-5.81%(35,909.70円)が過去2位(当時)、2024年7月25日の-1,285.34円/-3.28%(37,869.51円)が同9位(当時)、2021年2月26日の-1,202.26円/-3.99%(28,966.01円)が同10位(当時)、2020年3月13日の-1,128.58円/-6.08%(17,431.05円)が同13位(当時)。 **2020年と2021年はコロナショック**である(2020年4月16日付日本版ISAの道その302「コロナショックで市場が急変動! こういふ時こそ積立金額を増やし、慌てないで継続を!」~ https://www.am.mof.go.jp/text/outline_30016.pdf、2020年8月4日付日本版ISAの道その312「ウィズコロナ下の積立を検証!」~ https://www.am.mof.go.jp/text/outline_30084.pdf、2021年10月4日付日本版ISAの道その343「バブルでもコロナでも積立投資は資産の2倍か?!」~ https://www.am.mof.go.jp/text/outline_31004.pdf)

日経平均が過去最大の下げ幅となった要因の一つでもある米国の株式市場では、2024年8月5日(月)に **NYダウが前営業日比-1,033.99米ドル/-2.60%(38,703.27米ドル)**と過去12位の下げ幅を記録し、2024年6月14日以来安値、2024年7月17日に付けた過去最高値41,198.08米ドルから-1,460.82/-6.06%下となった。ブラックマンデー/Black Mondayの1987年10月19日(月)は前営業日比-508米ドル/-22.61%(1,738.74米ドル)。2024年8月6日(火)にNYダウは+294.39米ドル/+0.76%(38,997.66米ドル)、2024年8月7日(水)のNYダウは-234.21米ドル/-0.60%(38,763.45)。

NYダウの変動率の「幅」・「率」ランキング(1~15位)~上段は「上昇幅・率」、下段は「下落幅・率」~



...2024年8月

2024年8月7日現在

NYダウの上昇幅ランキング

順位	日付	曜日	引け値	上昇幅
1	2020年3月24日	火	20,704.91	+2,112.98
2	2020年3月13日	金	23,185.62	+1,985.00
3	2020年4月6日	月	22,679.99	+1,627.46
4	2020年3月26日	木	22,552.17	+1,351.62
5	2020年3月2日	月	26,703.32	+1,293.96
6	2022年11月10日	木	33,715.37	+1,201.43
7	2020年3月4日	水	27,090.86	+1,173.45
8	2020年3月10日	火	25,018.16	+1,167.14
9	2018年12月26日	水	22,878.45	+1,086.25
10	2020年3月17日	火	21,237.38	+1,048.86
11	2008年10月13日	月	9,387.61	+936.42
12	2022年5月4日	水	34,061.06	+932.27
13	2020年5月18日	月	24,597.37	+911.95
14	2008年10月28日	火	9,065.12	+889.35
15	2022年2月25日	金	34,058.75	+834.92



...2024年8月

2024年8月7日現在

NYダウの上昇率ランキング

順位	日付	曜日	引け値	上昇率(%)
1	1933年3月15日	水	62.10	+15.34
2	1931年10月6日	火	99.34	+14.87
3	1929年10月30日	水	258.47	+12.34
4	2020年3月24日	火	20,704.91	+11.37
5	1932年9月21日	水	75.16	+11.36
6	2008年10月13日	月	9,387.61	+11.08
7	2008年10月28日	火	9,065.12	+10.88
8	1987年10月21日	水	2,027.85	+10.15
9	1932年8月3日	水	58.22	+9.52
10	1932年2月11日	木	78.60	+9.47
11	2020年3月13日	金	23,185.62	+9.36
12	1929年11月14日	木	217.28	+9.36
13	1931年12月18日	金	80.69	+9.35
14	1932年2月13日	土	85.82	+9.19
15	1932年5月6日	金	59.01	+9.08



...2024年8月

2024年8月7日現在

NYダウの下落幅ランキング

順位	日付	曜日	引け値	下落幅
1	2020年3月16日	月	20,188.52	-2,997.10
2	2020年3月12日	木	21,200.62	-2,352.60
3	2020年3月9日	月	23,851.02	-2,013.76
4	2020年6月11日	木	25,128.17	-1,861.82
5	2020年3月11日	水	23,553.22	-1,464.94
6	2020年3月18日	水	19,898.92	-1,338.46
7	2022年9月13日	火	31,104.97	-1,276.37
8	2020年2月27日	木	25,766.64	-1,190.95
9	2018年2月5日	月	24,345.75	-1,175.21
10	2022年5月18日	水	31,490.07	-1,164.52
11	2022年5月5日	木	32,997.97	-1,063.09
12	2024年8月5日	月	38,703.27	-1,033.99
13	2018年2月8日	木	23,860.46	-1,032.89
14	2020年2月24日	月	27,960.80	-1,031.61
15	2022年8月26日	金	32,283.40	-1,008.38



...2024年8月

2024年8月7日現在

NYダウの下落率ランキング

順位	日付	曜日	引け値	下落率(%)
1	1987年10月19日	月	1,738.74	-22.61
2	2020年3月16日	月	20,188.52	-12.93
3	1929年10月28日	月	260.64	-12.82
4	1929年10月29日	火	230.07	-11.73
5	2020年3月12日	木	21,200.62	-9.99
6	1929年11月6日	水	232.13	-9.92
7	1899年12月18日	月	58.27	-8.72
8	1932年8月12日	金	63.11	-8.40
9	1907年3月14日	木	76.23	-8.29
10	1987年10月26日	月	1,793.93	-8.04
11	2008年10月15日	水	8,577.91	-7.87
12	1933年7月21日	金	88.71	-7.84
13	2020年3月9日	月	23,851.02	-7.79
14	1937年10月18日	月	125.73	-7.75
15	2008年12月1日	月	8,149.09	-7.70

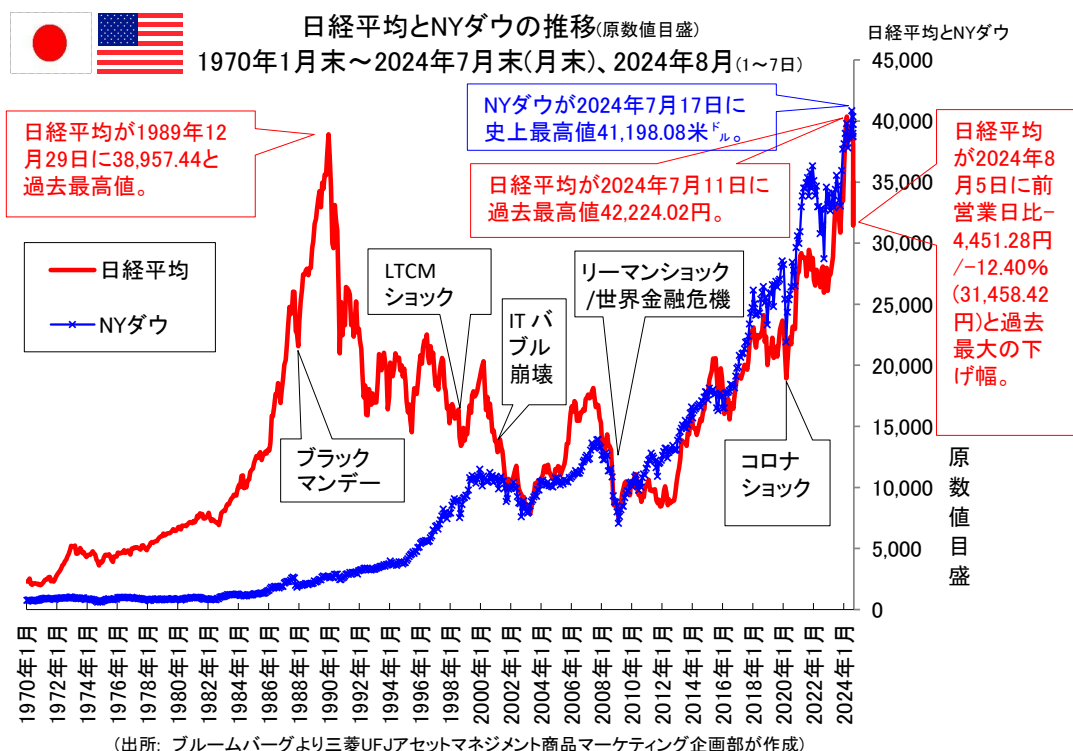
(出所: S&Pダウ・ジョーンズ・インディーズより三菱UFJアセットマネジメント商品マーケティング企画部が作成)

日本株暴落を受け、日米欧でメディアが「1987年ブラックマンデー以来の大暴落/biggest rout since 1987 Black Monday」、「過去最大の下げ幅/Biggest One-Day Fall」などと報じている。

2024年8月5日付米国WSJは「2024年8月5日(月)に日本の株式市場は過去37年で最大の下げ/Japan's stock market fell the most in 37 years. …(略)…。市場が急落した事で過去に大きな影響が出た例は、1987年の株価暴落/1987's crash、1998年のヘッジファンド大手ロングターム・キャピタル・マネジメント(LTCM)の破綻/1998's Long-Term Capital Management blowup や2008年の世界金融危機/2008's global financial crisis。歴史は完璧な前例ではないものの、今の所、1987年の事例(の種やかなバージョン)が、他の2例よりも今回の急落と似通っている様に見える。1987年10月のブラックマンデーには、株式市場が1日で史上最大の下落幅を記録、S&P500種指数は20%以上下落した。その年の8月に高値を付けるまでの1年間に39%もの驚くべき上昇を遂げており、それまでに投資家は過剰なレバレッジを効かせていた。…(略)…。1987年と同様に2024年も金融引締状態で債券利回りが高くなっていたにもかかわらず株高が起きており、1987年も2024年と同様、投資家は予想外に大きくなった利益を確定する為の売りに出たくてうずうずしていた。…(略)…。最悪は2008年の再来となる事だが、それは無さそう。2023年にかけてプライベート・ファンド/private funds がトラブルを抱え銀行が破綻したものの、今、リスクの多くはプライベート・レンダー/private lenders が引き受けるなど、金融システムの流動性リスクは低くなっている。」(強調下線は当コラム筆者、

2024年8月5日付米国WSJ「Is This 1987 All Over Again? What's Driving the Market Meltdown?」～ <https://www.wsj.com/finance/stocks/is-this-1987-all-over-again-whats-driving-the-market-meltdown-4d107126>、プライベート・ファンドのトラブル…2021年4月26日付日本版ISAの道その332「ヘッジファンドを模倣するファミリーオフィスと投信～アルケゴスの様なレバレッジをかけるオルタナティブ投信(LJMやインフィニティQ)！アルケゴスの使ったトークル・リターン・スワップ/CFD等デリバティブは投信でも使え、手数料はエクスペンスレシオ/経費率の「その他費用」に入らない!!～」～ https://www.am.mof.go.jp/text/oshirase/210426_2.pdf、2023年の銀行地銀…2023年3月24日付投信調査レポートNo.393「日米投信週次概況(2023年3月22日週)米国ではSVB破綻の中、パッシブ運用投資家が地銀株ファンド買い継続!? バンクローン・ファンド流出はSVBショックと言うよりSEC流動性分類変更か」～ <https://www.am.mof.go.jp/text/oshirase/230324.pdf>と動揺を与えながらも、しっかりした分析をしている。

今回の大きな下げは2008年の世界金融危機(リーマンショックを含む)でなく1987年のブラックマンデーに近く、今後の株高が期待出来そうだ。 2008年世界金融危機時の日経平均は2007年7月9日に18,261.98円という高値(2000年5月2日以来高値)を付けた後、2007年8月9日のパリバ・ショック(米サブプライムローン/低所得者向け住宅ローン問題)、2008年3月14日のベアースターンズショック、2008年9月15日のリーマンショックを経て2008年10月に大きな下落率を記録(冒頭下落率ランキング参照)。なお、WSJには「日本の株式市場は過去37年で最大の下げ」とあるが、これは米国ブラックマンデー後に付けた1987年10月20日の過去最大の下げ率-14.90%以来の下落率-12.40%という事で(冒頭下落率ランキング参照)、下落幅は日経平均が1949年5月16日からあるので「過去最大、過去75年で最大の下げ」。



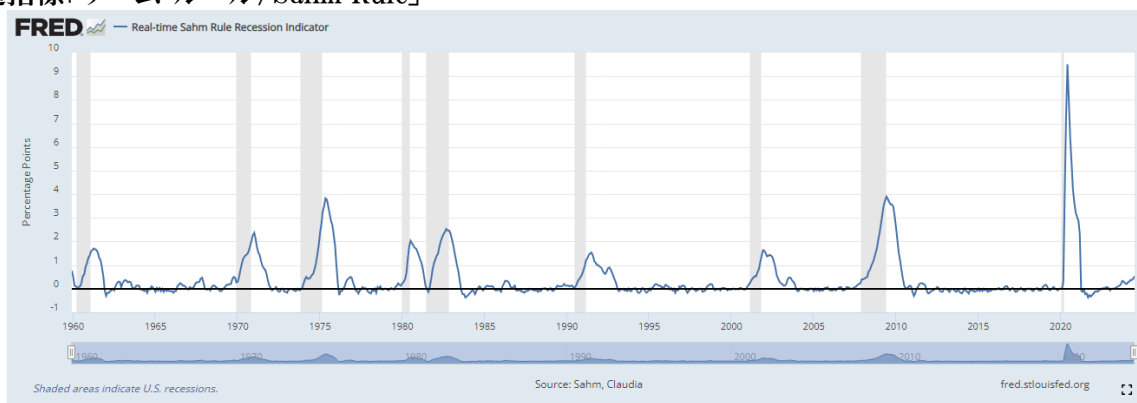
2024年8月7日付英国 Financial Times は「東京株式市場は2024年8月5日(月)に最も大きな打撃を受け、TOPIX は日銀による予想外の利上げの数日後に-12%以上急落、2024年8月6日(火)に+9.3%上昇した。ハイテク株中心の日経平均株価/tech-heavy Nikkei 225 は+10.2%上昇した。…(略)…。グローバルな売り/global sell-off は**円キャリートレード/yen carry tradeの解消/unwindingにより深刻になった**。アバディーン/Abrdnのレイ・シャルマ・オン/Ray Sharma-Ong氏は『基本的に、**日本経済に大きな変化はない**。キャリートレードが解消され、勢いのある売りが大量に起こっている。』、UBSのキラン・ガネーシュ/Kiran Ganesh氏は『**ファンダメンタルズが週末だけで11~12%も変化していないので、何らかの強制的または技術的な売りがあったに違いない**。』、CLSAのニコラス・スミス/Nicholas Smith氏は『**アルゴリズム取引プログラム/algorithmic tradingの誇張された影響で、今やAI/artificial intelligenceが我々を混乱に陥れたように思える**。』と言う。』(強調下線は当コラム筆者、2024年8月7日付英国 Financial Times「Wall Street stages partial rebound after Japanese stocks surge」~ <https://www.ft.com/content/4af0f04a-5224-46c5-af04-65f53e92734c>)と報じており、前頁米国 WSJ と同様、株に強気の様である。

世界最大の投信評価機関でもあるモーニングスター/Morningstar は、米国のデービッド・セケラ/David Sekera氏が「**パニックにならない様に。長期投資家は**過大評価されているグロース株やコア株から、過小評価されているバリュース株や小型株、不動産やエネルギー株、通信などにする好機**である。**」(強調下線は当コラム筆者、2024年8月6日付米国 Morningstar「Don't Panic! It's Not 2022 All Over Again」~ <http://www.morningstar.com/markets/dont-panic-its-not-2022-all-over-again>)、米国のサラ・ハンセン/Sarah Hansen氏が「**円高によってキャリートレードの利益が大幅に減少、プロ投資家は損失を補う為にポジションを解消、リスクの高い資産から撤退し始め日銀が予想以上に大幅な利上げを行い、トレード解消が加速した。…(略)…。2024年8月6日(火)の様なボラティリティが高い時は**ポートフォリオの配分が目標や投資で達成したい事と一致しているかどうかを再調整して確認する好機**である。**」(強調下線は当コラム筆者、2024年8月7日付米国 Morningstar「Here's What Sparked Monday's Stock Market Madness」~ <https://www.morningstar.com/markets/here-what-sparked-monday-stock-market-madness-2>)、英国のジェームズ・ガード/James Gard氏が「**2024年8月5日(月)に日経平均株価は過去最大の下落幅、1987年以来の下落率**となったが、2024年8月6日(火)に損失の大部分を取り戻した。…(略)…。コロンビア・スレッドニードル/Columbia Threadneedleのステイブン・ベル/Steven Bell氏は2024年8月5日(月)に『**米国の労働市場の弱い数字は景気後退とそのタイミングを正確に予測する指標“**サーム・ルール/Sahm Rule**”の引き金**となった。』と言う。…(略)…。モーニングスターの行動専門家/Morningstar behavioural expertsは、**投資家にパニックに陥らないようにと呼びかけている**。これは2020年のコロナ/pandemicの時に強調したメッセージであるが、後から考えると大きな買いの機会だった。』(強調下線は当コラム筆者、2024年8月6日付英国 Morningstar「Global Market Turmoil: What We Know So Far」~ <https://www.morningstar.co.uk/news/252844/global-market-turmoil-what-we-know-so-far.aspx>)と云っている。

サーム・ルール/Sahm Rule は米国 FRB/連邦準備制度理事会のクラウディア・サーム/Claudia Sahms氏が考案した景気後退指標。失業率の3か月移動平均が過去12か月間で最も低かった水準を0.5%上回った際に景気後退の可能性が高まると言う。2024年8月2日(金)の米国雇用統計で2024年7月の失業率が4.3%と予想4.1%を上回り3か月移動平均が4.1%となって、過去12か月間で最も低かった水準を0.53%上回った。米国のセントルイス連邦準備銀行/St. Louis Fedが「Real-time Sahm Rule Recession Indicator」として発表している

(<https://fred.stlouisfed.org/series/SAHMRULETIME>)

景気後退指標「サーム・ルール/Sahm Rule」

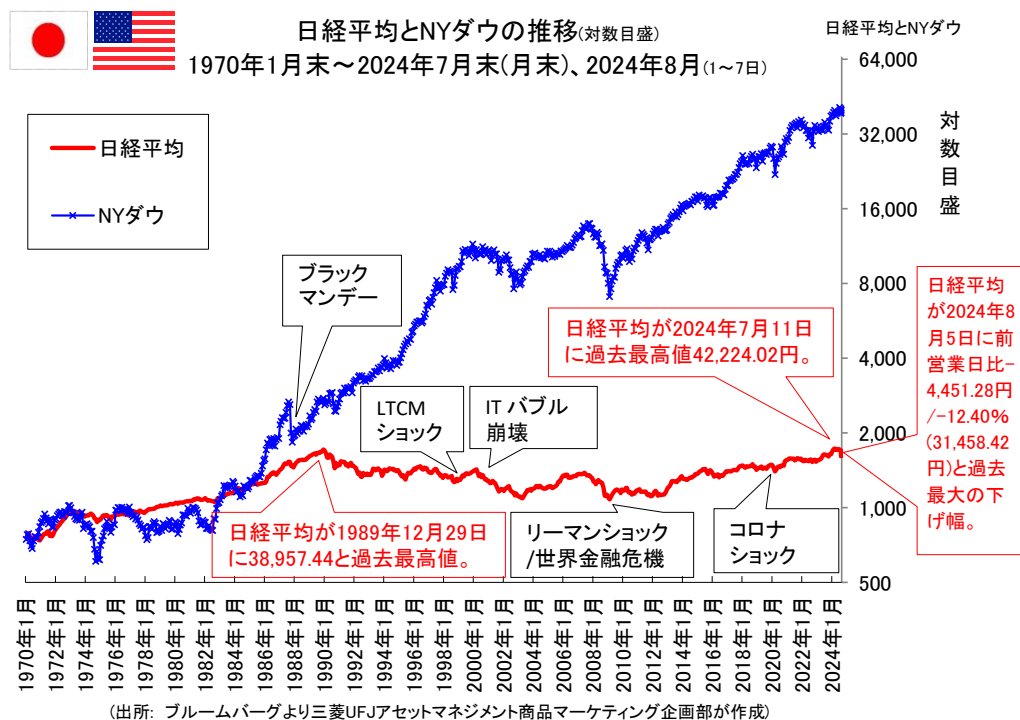


(出所：米国セントルイス連邦準備銀行/St. Louis Fed)

WSJの「過去37年で最大の下げ」やモーニングスターの「過去最大の下落幅、1987年以降の下落率」など、まずは下落幅と下落率をしっかりと理解すべきだ。

p.3 下方のグラフは一般的なグラフ(原数値目盛)であるが、長期で見るとには適していない。過去と比べ水準が違い過ぎる。例えば、コロナショックでNYダウは-11,354.92米ドルの下落幅を記録(2020年2月12日に付けた過去最高値29,568.57米ドルから2020年3月23日に付けた2016年11月18日以来安値18,213.65米ドルまで、下落率-38.4%~最高値からの最大下落率をドロウダウン/draw down)、リーマンショックでNYダウは-7,728.15米ドルの下落幅を記録した(2007年10月11日に付けた過去最高値14,198.10米ドルから2009年3月6日に付けた1997年4月15日以来安値6,469.95米ドルまで、ドロウダウン/draw down-54.4%)。 **下落幅はコロナショックがリーマンショックより大きい、下落率はリーマンショックがコロナショックより大きい。**

直近水準が高い、つまり、右上がりの場合、下落幅が過去最大の下げとなっても、下落率で見ると小さい事がある。右上がりの株価を見る場合、一般的なグラフ(原数値目盛)でなく、グラフの縦軸を対数目盛とするグラフが良い。水準の高低関係無く、過去との比較がしやすい。対数目盛グラフで米国は緩やかな右上がり、下落率はコロナショックがリーマンショック(やITバブル崩壊、ブラックマンデー)より小さい事が一目でわかる。「過去最大の下げ」などと言うメディアのヘッドラインを見て動揺せず、冷静でいる事を資産運用業界は投資家に伝えるべきであろう。




米国の資産運用業界でも十分理解されておらず、「相場変動がアドバイザーの顧客をナッツにしている(狂わせている)。恐怖と欲望と言う感情が、論理より優先している。例えば、『2019年は1929年の大暴落から90周年にあたる』と言うが、当時と今では状況がまるで違うだろう。 **NYダウの変動幅が歴史的だが、変動率で見ると1929年や1987年の大暴落よりかなり小さい。大きな損失を被ったとも言うが、過去8年以上で見れば、膨大な利益を獲得している。テレビは相場変動を強調するが、これはアドバイスでも何でも無く、責任も無い。この様に、顧客は悩まされる事があるが、アドバイザーは悩まされてはいけない。**」(2019年1月9日付ThinkAdvisor「10 Unexpected Reasons Volatility Drives Clients Nuts」~ <https://www.thinkadvisor.com/2019/01/09/10-unexpected-reasons-volatility-drives-clients-nuts/>)

と言う(2019年2月4日付日本版ISAの道その25「今こそ行動コーチング! 米国ではタックス・マネジメントより価値の高いアドバイス!~バンガード vs フィデリティ vs シュワブ~」~ https://www.am.mof.go.jp/est/ochirasu_190204.pdf)

英国でも同様、ISA/Individual Savings Accounts/個人貯蓄口座(株式型がNISAのモデル)で株価急落を受け大量解約をする事があると言う(2007年8月10日付Reuters「UK's ISAs see only second-ever net outflow in Nov」~ <https://www.reuters.com/article/world/uk-isas-see-only-second-ever-net-outflow-in-nov-idf3L0179569/>)

ISA ファンドの 2024 年 1~5 月純流入は 7 位ハイテク株ファンド、10 位が日本株ファンドであり、動揺する英国民もいる事であろう

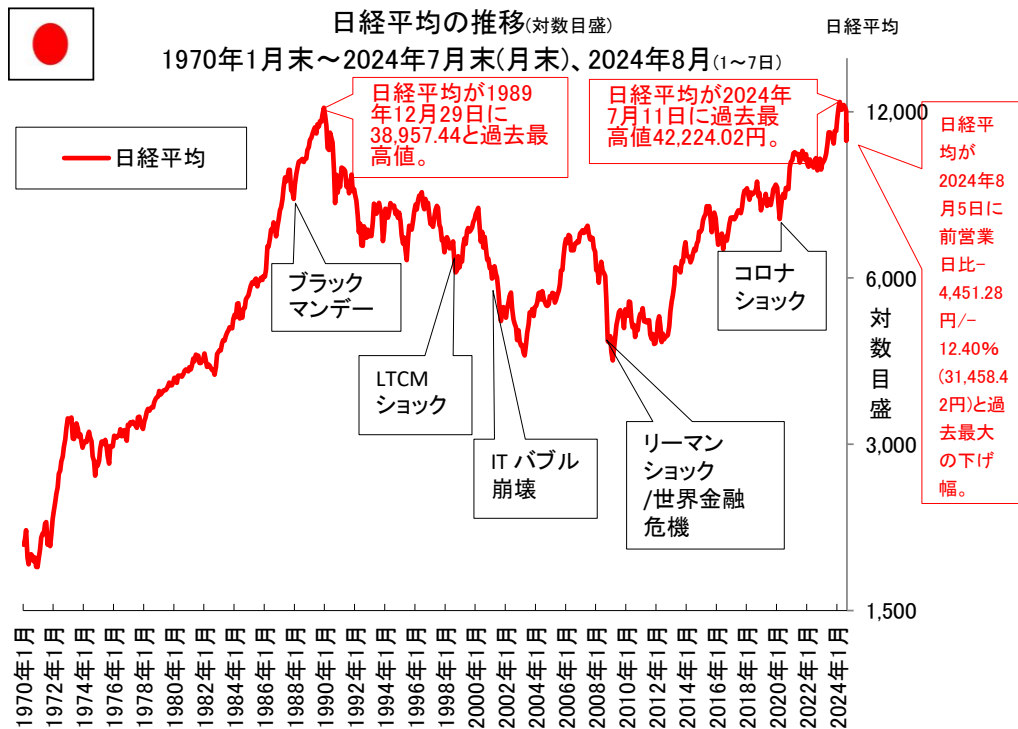
(IA/Investment Association/投資協会~ <https://www.ia.org/sites/default/files/fund-statistics/stats-0124-12.pdf> および <https://www.ia.org/sites/default/files/fund-statistics/stats-0224-12.pdf>、英国 ISA はプラットフォーム/platform と呼ばれる個人向けネット証券証券会社が主に取り扱っている、1位のボラティリティ・マネージド/Volatility Managed も併せて 2023 年 12 月 11 日付日本版 ISA の道 その 392「新 NISA は本家英国のビジネス(投信評価等)を参考に~英国 ISA では高いレーティングのアクティブファンドが人気、ISA 改革で複数販売会社と端株とインベティブ・ファイナンス ISA の非上場株ファンド LTAF 投資が可に~」https://www.am.fg.jp/report/investigate/column_211211.pdf)o

 英国の ISA/Individual Savings Accounts/個人貯蓄口座(株式型が NISA のモデル)ファンド
全 47 分類中、2024 年 1~5 月の純流入の大きい 10 分類(ネット証券/プラットフォーム 5 社)

順位	英国投資協会分類/IA Sector (IA...Investment Association/投資協会)		ISA ファンドの純流出入(5 大ネット証券) /Net ISA Sales on Five Platforms (単位: 百万英ポンド)			
			2024 年 3 月	2024 年 4 月	2024 年 5 月	2024 年 1~5 月
1	グローバル株	Global	+103	+240	-37	+203
2	ボラティリティ・マネージド	Volatility Managed	+89	+135	+57	+193
3	北米株	North America	+73	+150	+24	+174
4	エマージング株	Global Emerging Markets	+1	+93	+15	+109
5	株 40~85%、英ポンド 25% 以上	Mixed Investment 40-85% Shares	+28	+81	+15	+97
6	短期マネーマーケット	Short Term Money Market	+16	+59	+11	+71
7	ハイテク株	Technology and Technology Innovation	+25	+39	+16	+55
8	グローバル高配当株	Global Equity Income	+16	+35	+3	+39
9	欧州株(除く英国)	Europe Excluding UK	+8	+35	+0	+35
10	日本株	Japan	+11	+32	-1	+31
全 46 分類の合計			+233	+902	-111	+790

※1: ボラティリティ・マネージド/Volatility Managed...例えば、英国ラスボーンズ・アセット・マネジメント/Rathbones Asset Management 社の「Rathbone Multi-Asset Defensive Gr S Acc」で、株式・債券・オルタナティブ等を使い消費者物価/CPI+2%リターンを目指すアクティブのオープンエンド・ファンド(2023 年 12 月 11 日付日本版 ISA の道 その 392「新 NISA は本家英国のビジネス(投信評価等)を参考に~英国 ISA では高いレーティングのアクティブファンドが人気、ISA 改革で複数販売会社と端株とインベティブ・ファイナンス ISA の非上場株ファンド LTAF 投資が可に~」https://www.am.fg.jp/report/investigate/column_211211.pdf)o

(出所: 英国投資協会/Investment Association/IA より三菱 UFJ アセット マネジメント 商品 マーケティング 企画部 が作成)



(出所: ブルームバークより三菱 UFJ アセット マネジメント 商品 マーケティング 企画部 が作成)

日本の資産運用業界でも、投資家に理解してもらっていききたい。2024 年 8 月 2 日に金融経済教育推進機構/J-FLEC(金融庁が認可・監督する認可法人)が本格始動したが、(2024 年 4 月 5 日設立~ <https://www.j-flec.co.jp/>)、積立投資の事など、最善の情報を提供する事を強く期待している(積

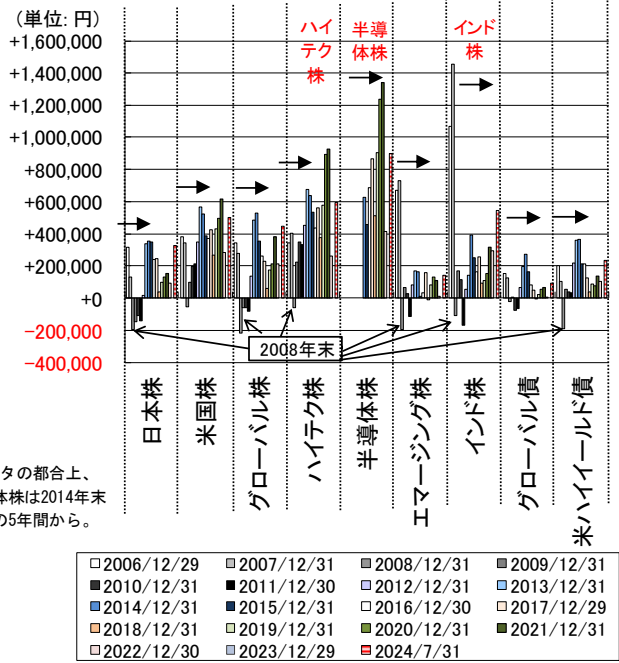
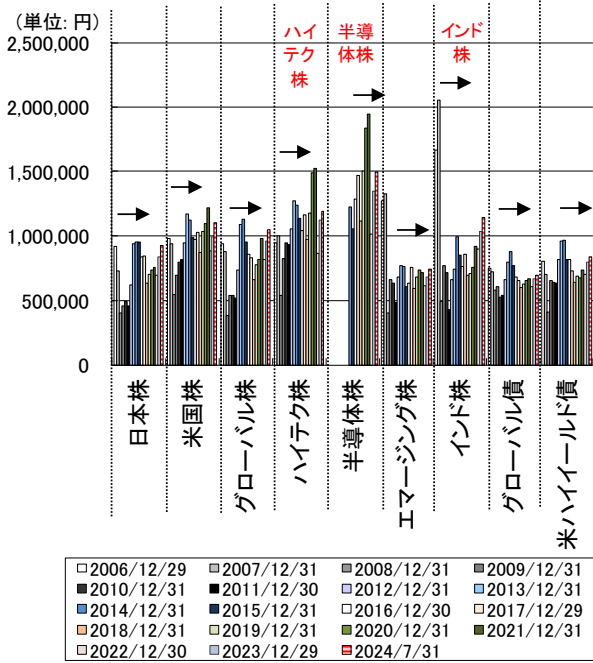
立合計額シミュレーション...2023 年 1 月 16 日付日本版 ISA の道 その 372「資産所得倍増プラン元年! 新 NISA の主役は積立!! 複利やシミュレーションの盲点など教育・アドバイスが今一層必要な時~新 NISA は 2023 年 3 月にも開設予約で 2023 年 10 月から開設申請手続き?~」https://www.am.fg.jp/text/ohkawa_20116_3.pdf、米国や英国の金融経済教育...2022 年 9 月 12 日付日本版 ISA の道 その 364「新しい資本主義に沿った税制改正要望と金融行政方針~NISA 拡充(ジュニア NISA 事実上の復活) ただ NISA ミリオネアの道は?、教育資金贈与 2 千万円非課税(つみたて NISA 活用へ)、金融リテラシー(米 FLEC と英 MaPS)、そして、つみたて NISA 適格投信のフロー~」https://www.am.fg.jp/text/ohkawa_20012_2.pdf)o



投資期間 5年

毎月末に10000円ずつ5年間購入した時の **時価**
 *左から2006年～2023年の各年末と2024年7月末。

毎月末に10000円ずつ5年間購入した時の **損益**
 *左から2006年～2023年の各年末と2024年7月末。

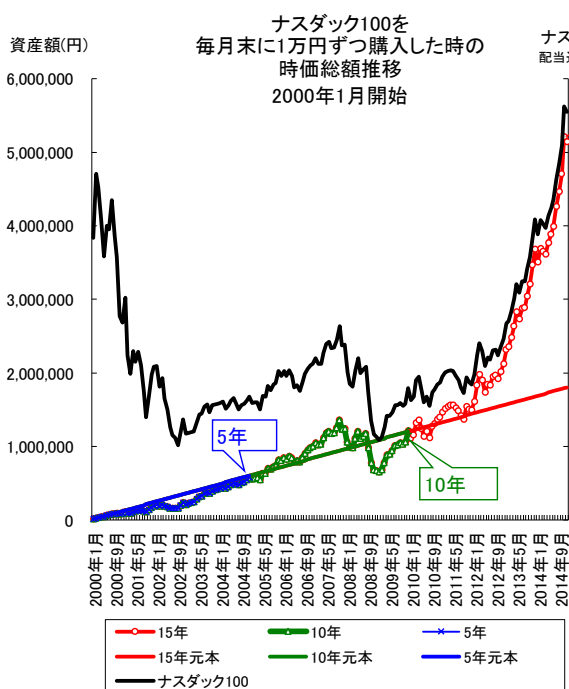


(出所: ブルームバーグより三菱UFJアセットマネジメント商品マーケティング企画部が作成)

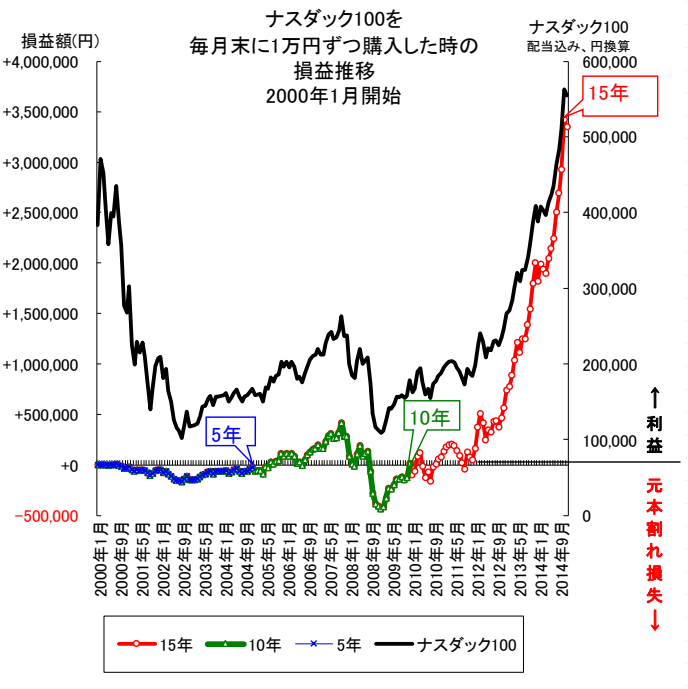
(出所: ブルームバーグより三菱UFJアセットマネジメント商品マーケティング企画部が作成)

開始時が株価のピーク近くで、その後下落していく様な局面ではどうか。 例えば、かつてあった IT バブル・ピーク直前 2000 年 1 月からバブル崩壊過程でハイテク(半導体)株に毎月末 1 万円ずつ投資した時の時価と損益はどうなるかだ。下記左は時価で下記右側が損益だ。下記は米ハイテク 7 社が半分を占めるナスダック 100/NASDAQ100 指数、次頁上方はフィラデルフィア半導体株指数/SOX 指数である。

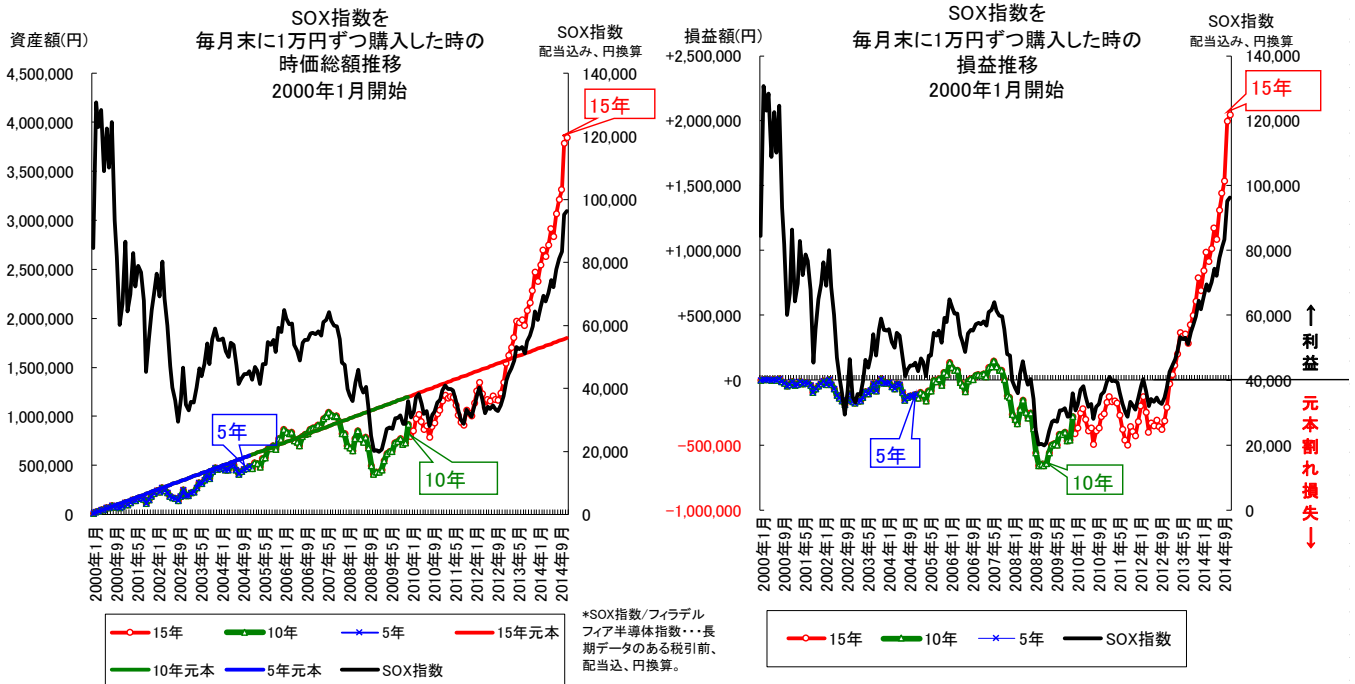
当初 5 年間は**元本割れが続くものの、一括投資した事に比べれば、はるかに小さい元本割れ**であり、その後利益となっていく。だが、ここでリーマン・ショック(2008 年 9 月)が起こり大きく元本割れとなってしまうが、その後 **4~5 年の積立投資継続で、大幅上昇相場到来により大きな利益**となっていく。



(出所: ブルームバーグより三菱UFJアセットマネジメント商品マーケティング企画部が作成)



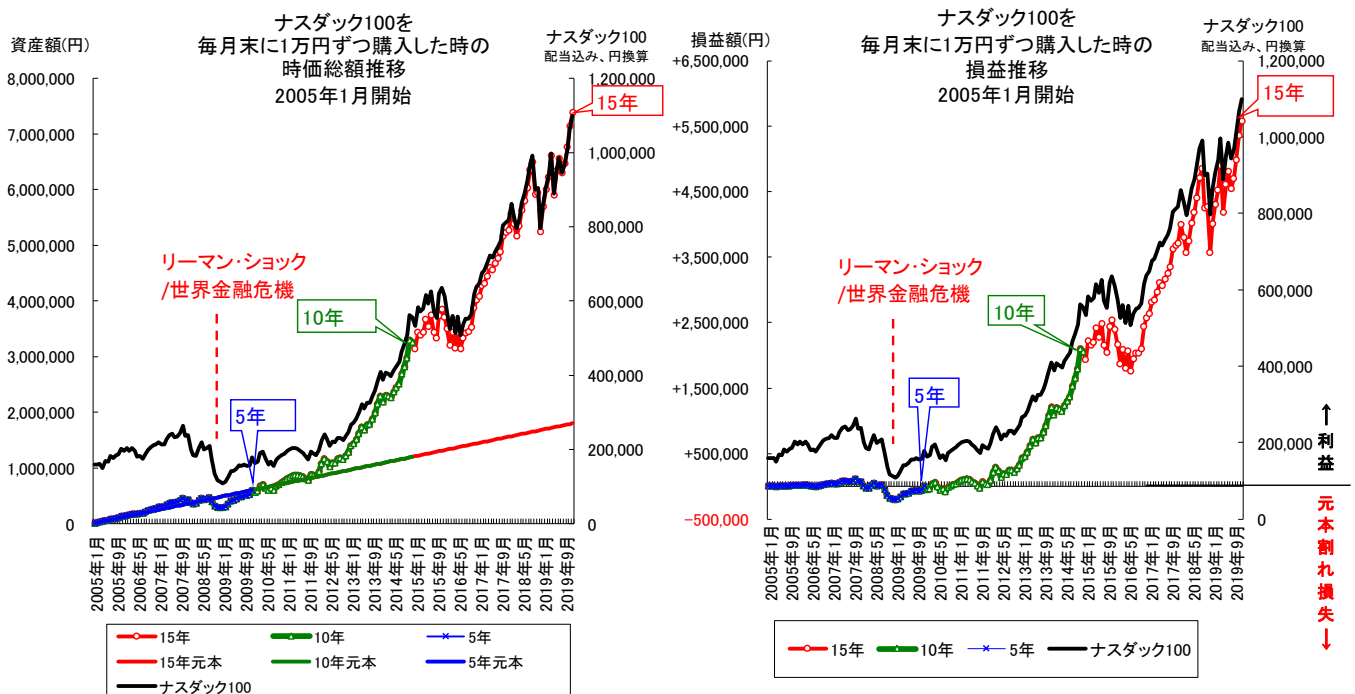
(出所: ブルームバーグより三菱UFJアセットマネジメント商品マーケティング企画部が作成)



(出所: ブルームバーグより三菱UFJアセットマネジメント商品マーケティング企画部が作成)

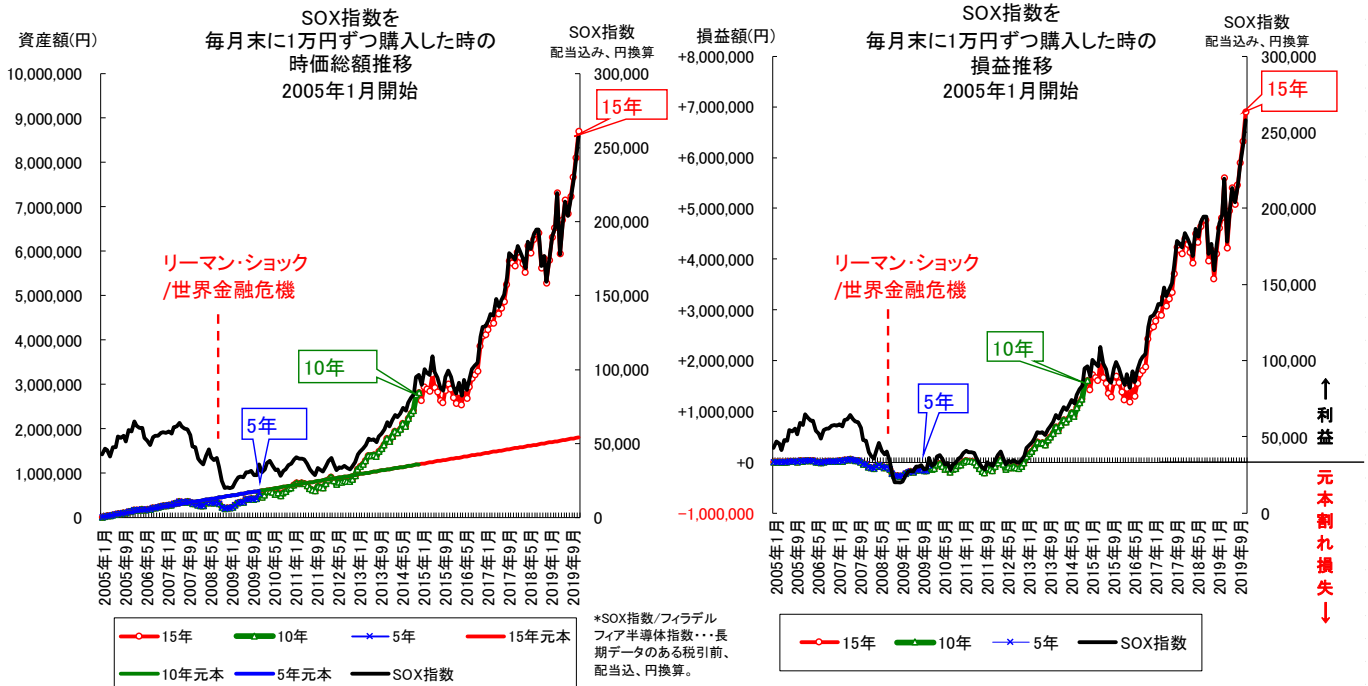
(出所: ブルームバーグより三菱UFJアセットマネジメント商品マーケティング企画部が作成)

同様に積立開始後数年でリーマン・ショック(2008年9月)を迎える2005年1月からも見る(下記左は時価で下記右側が損益)。
リーマン・ショック到来により当初5年後半こそ元本割れとなるが、その後の長期株高で8年目頃から利益となり、大きな利益となっていく。 下記は米ハイテク7社が半分を占めるナスダック100/NASDAQ100指数、次頁上方はフィラデルフィア半導体株指数/SOX指数である。



(出所: ブルームバーグより三菱UFJアセットマネジメント商品マーケティング企画部が作成)

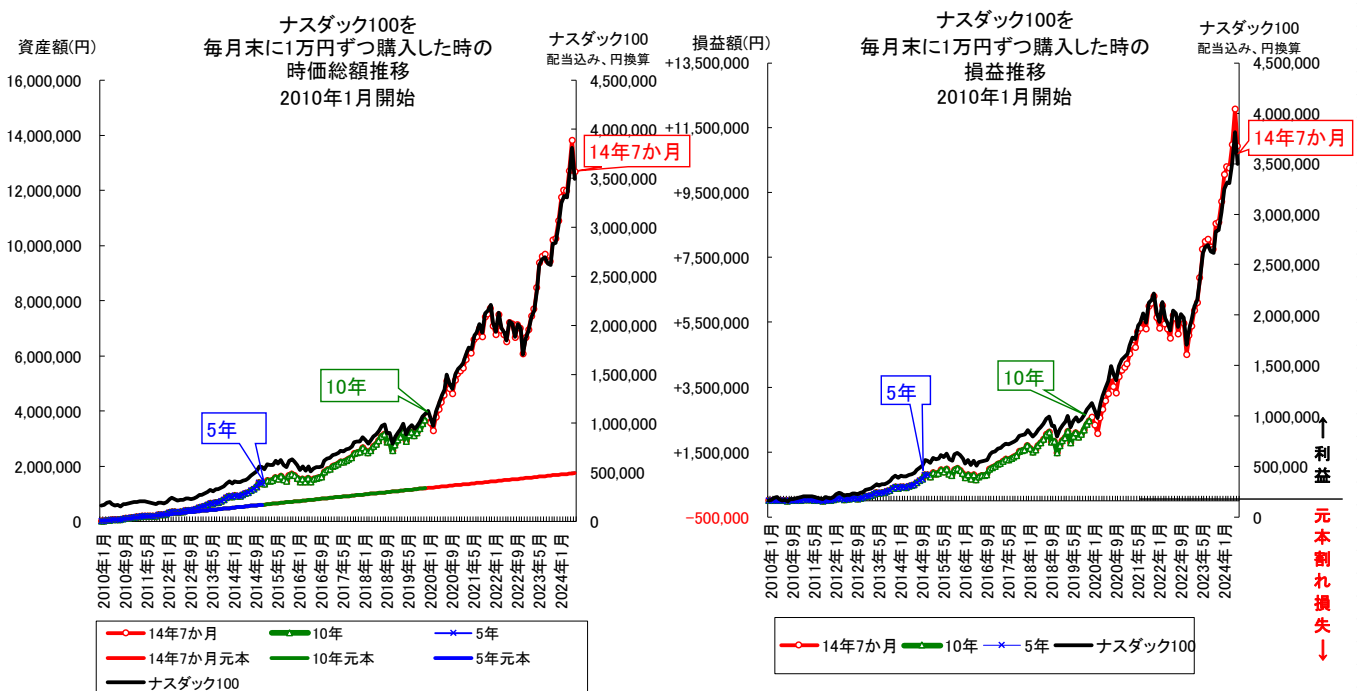
(出所: ブルームバーグより三菱UFJアセットマネジメント商品マーケティング企画部が作成)



(出所: ブルームバーグより三菱UFJアセットマネジメント商品マーケティング企画部が作成)

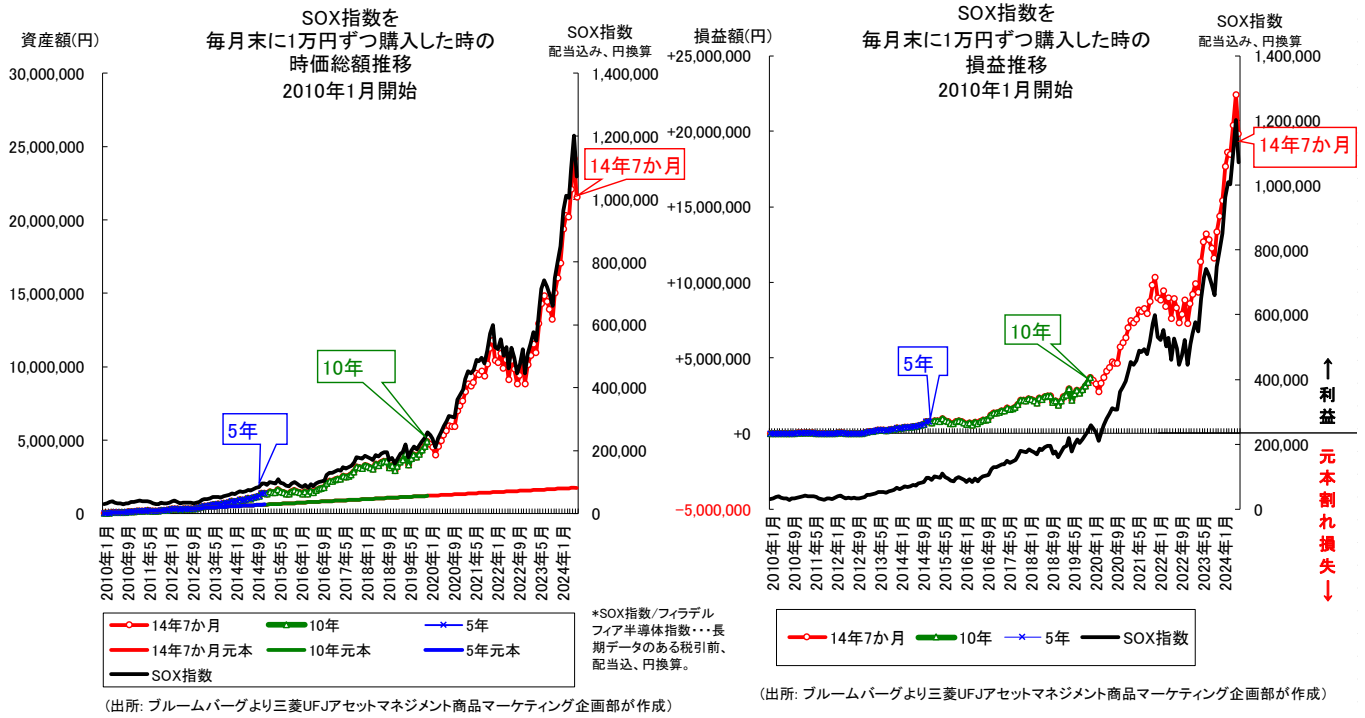
(出所: ブルームバーグより三菱UFJアセットマネジメント商品マーケティング企画部が作成)

そして、最後に、リーマン・ショック後 2010 年 1 月からも見る(下記左は時価で下記右側が損益)。**長期株高で当初から概ね利益で、その後、大きな利益となっていく。** これも下記は米ハイテク 7 社が半分を占めるナスダック 100/NASDAQ100 指数、次頁はフィラデルフィア半導体株指数/SOX 指数である。



(出所: ブルームバーグより三菱UFJアセットマネジメント商品マーケティング企画部が作成)

(出所: ブルームバーグより三菱UFJアセットマネジメント商品マーケティング企画部が作成)



最後に、2024年4月22日付日本版ISAの道その400「世界のハイテク(半導体)株ファンド～『NISAのお手本』英ISAでハイテク株やインド株が人気！ハイテク(半導体)株やインド株にバブル・ピークやショック前に積立投資をすると…」(<https://www.am.mufg.jp/report/investigate/column/340122.pdf>)の結論を繰り返す事とする。それは「重要な事は、**今後ITバブル崩壊やリーマン・ショックのような事があっても、過去にあった事、過去どうなったか(以上で述べた事)を冷静に思い出し、投資継続を考える事であり、それが長期資産形成の大きな鍵となろう。**」である——。そして、資産運用業界には、顧客の利益時も損失時も、顧客に長期の目標とニーズを思い出させ、継続させる様なフォローアップ、さらには、プロダクトガバナンス、コーチングを期待している(2022年8月8日付日本版ISAの道その362「積立投資のフォローアップ、プロダクトガバナンス、フィデューシャリー・デューティー～資産形成層がネットで積立投資を急増中、積立投資を期間・開始時・終了時(出

口)を変え検証～」(https://www.am.mufg.jp/text/ohiraec_220808_2.pdf)

以上

三菱UFJアセットマネジメント【投信調査コラム】日本版ISAの道
バックナンバー: 「 <https://www.am.mufg.jp/report/investigate/> 」。

三菱UFJアセットマネジメント株式会社 商品マーケティング企画部
松尾 健治(kenji-matsuo@am.mufg.jp)、
窪田 真美(mami-kubota@am.mufg.jp)。

本資料に関してご留意頂きたい事項

- 本資料はNISA(少額投資非課税制度)など内外の資産運用に関する情報提供のために、三菱UFJアセットマネジメントが作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。販売会社が投資勧誘に使用することを想定して作成したものではありません。投資信託をご購入の場合は、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 本資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 本資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。
- 本資料中の運用実績等に関するグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、税金、手数料等を考慮しておりませんので、投資者の皆様の実質的な投資成果を示すものではありません。市況の変動等により、方針通りの運用が行われない場合もあります。
- 本資料に示す意見等は、特に断りのない限り本資料作成日現在の筆者の見解です。
- 投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。
- 投資信託は値動きのある有価証券を投資対象としているため、当該資産の価格変動や為替相場の変動等により基準価額は変動します。従って投資元本が保証されているわけではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。
- 投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。



三菱UFJアセットマネジメント

三菱UFJアセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第404号
加入協会：一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会